

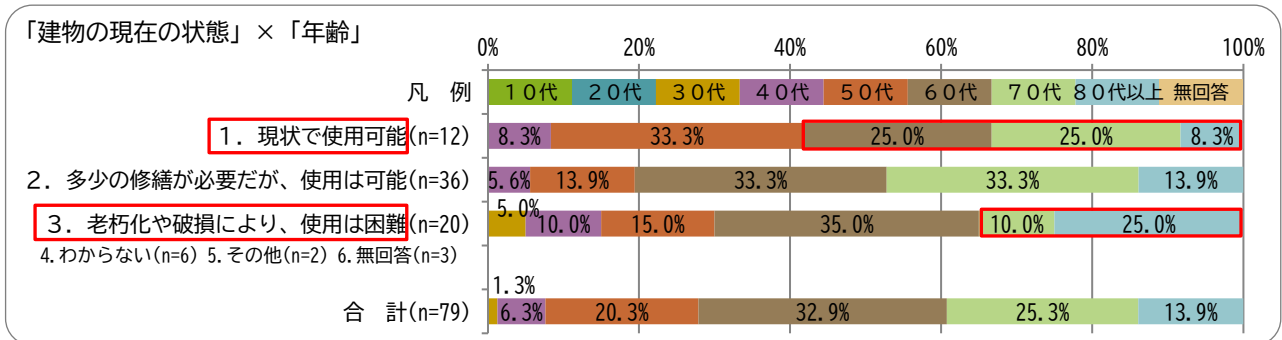
## 参考1：クロス集計

調査結果について、必要に応じてクロス集計を行った。クロス集計結果は以下のとおりであり、分析に関連する集計結果をグラフ内の赤囲みで示した。

なお、複数回答によるクロスの場合、単純集計の合計値と一致しない場合がある。

## 1. 建物の現在の状態について

## (1) 「回答者の年齢」とのクロス集計：(問2(5)と問1(2))



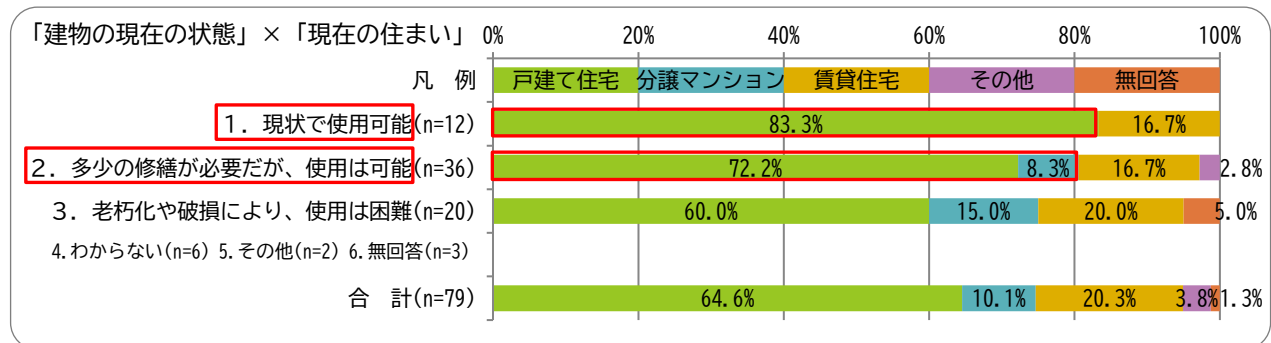
・「使用可能な状態の空き家」の回答者の約6割が60代以上である。

→高齢者の方へのきめ細やかな対応が必要（買い手や借り手を見つけるためのサポートや相談窓口等）

・「老朽化や破損により、使用は困難な空き家」の回答者の3割以上が70代以上である。

→今後の老朽化の進行により特定空家等にならないよう注視が必要

## (2) 「回答者の現在の住まい」とのクロス集計：(問2(5)と問1(3))

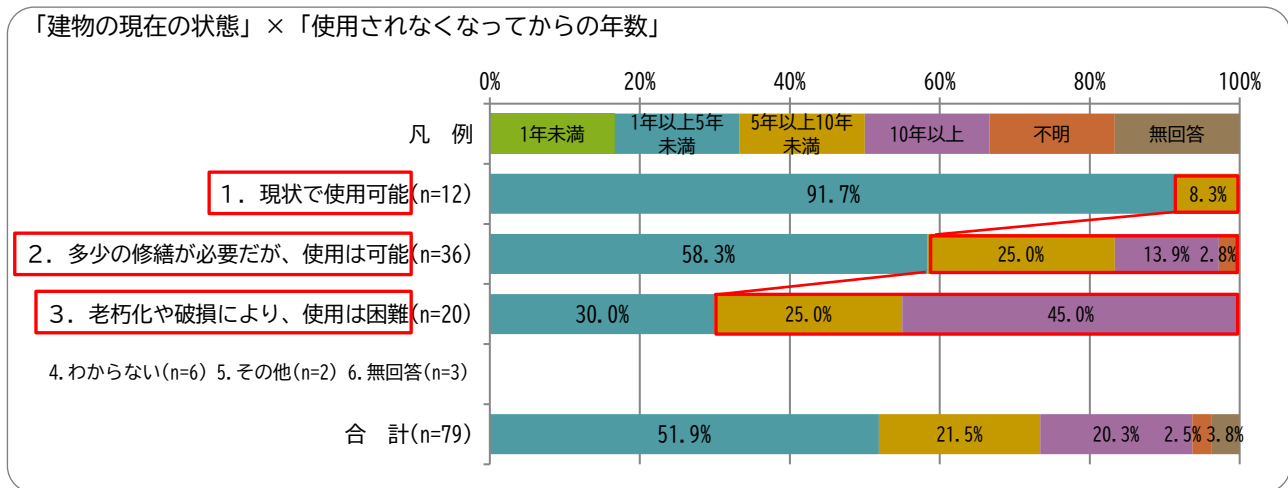


・「使用可能な状態の空き家」の回答者の8割以上が持家に居住している。

・「多少の修繕が必要だが使用は可能」の回答者も約8割が持家等に居住している。

→今後空き家を住居として使用する可能性は低いと考えられるため、放置されることで老朽化が進行しないよう、適正管理の意識啓発が必要

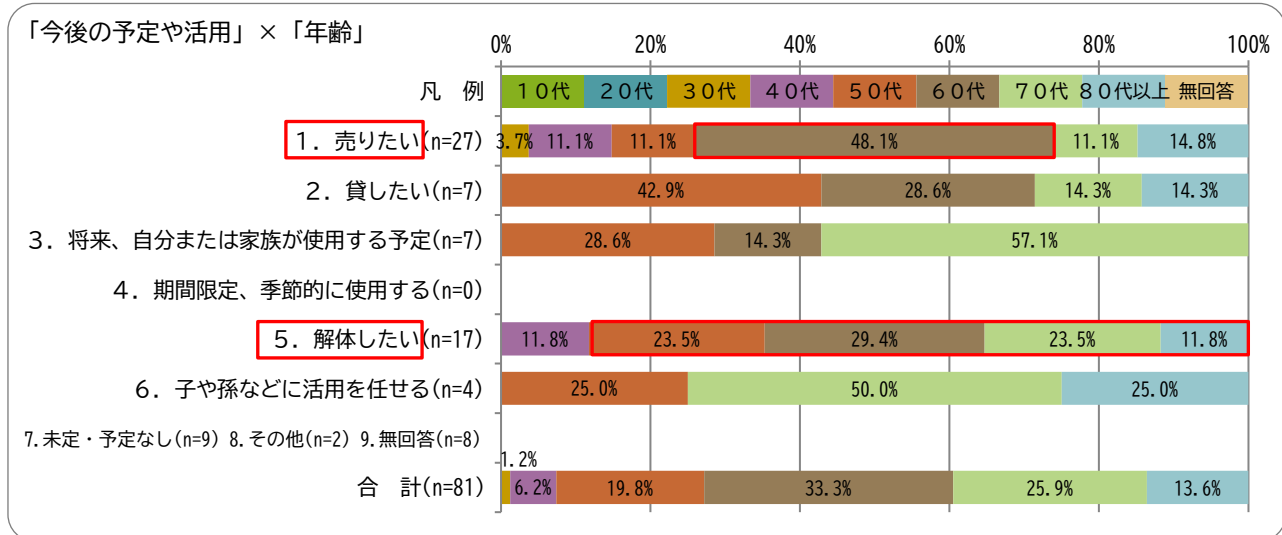
(3) 「建物が使用されなくなつてからの年数」とのクロス集計：(問2 (5) と問2 (4))



・空き家となつてから5年以上経過した建物が占める割合について、「現状で使用可能」では1割弱、「多少の修繕が必要だが、使用は可能」では約4割、「老朽や破損により、使用が困難」では約7割であり、空き家の状態が悪い建物は不使用期間が長い傾向にある。「現状で使用可能」では10年以上経過した建物は皆無であった。  
 →長期間空き家とならないような対策や空き家の期間が長い建物の老朽化への対応が必要

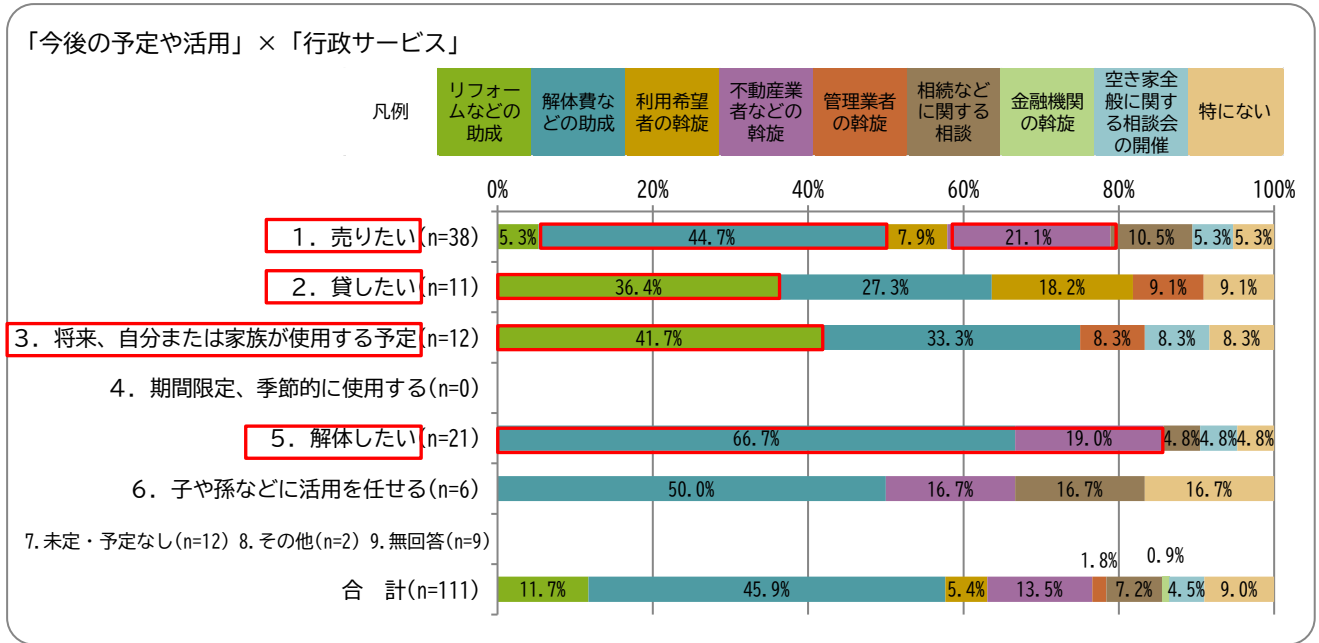
2. 今後の予定や活用について

(1) 「回答者の年齢」とのクロス集計：(問4 (1) と問1 (2))



・「売りたい」との意向を持つ回答者の約5割が60代の方であり、高齢になる前に空き家を手放したいという意向がうかがえる。  
 ・「解体したい」との意向を持つ回答者は50代以上で合わせて約9割であった。  
 →「解体したい」との意向を持つ回答者は比較的高年齢層の意向が強く、自分の代で空き家を処分する必要性を感じていると考えられ、除却促進へのサポートが必要

(2) 「期待する行政サービス」とのクロス集計：(問4 (1)と問4 (3))

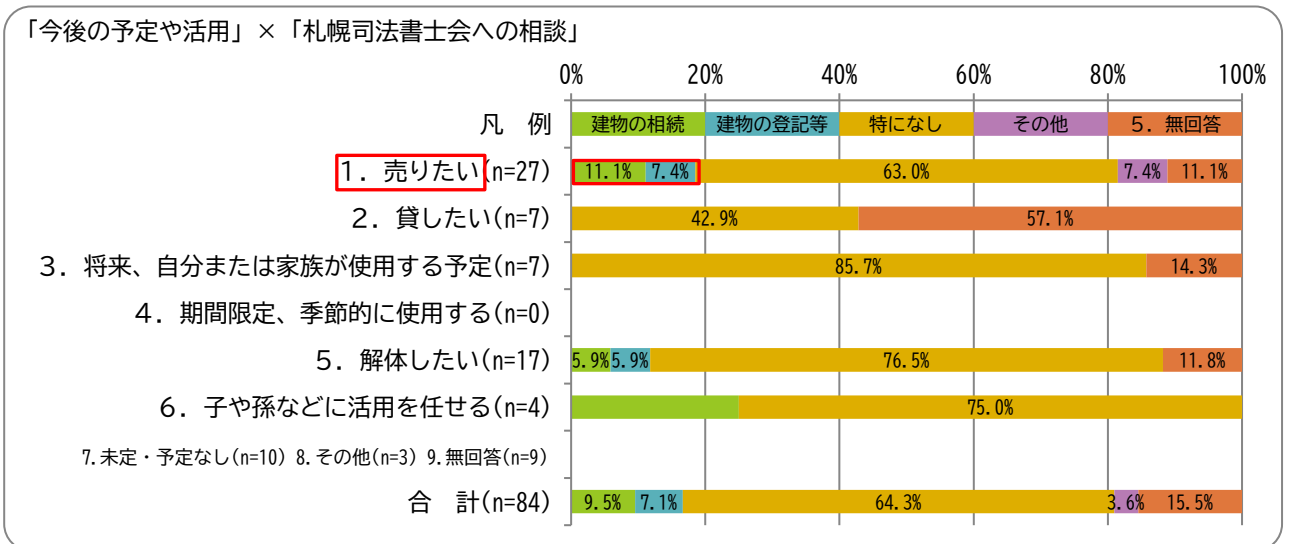


・「売りたい」、「解体したい」回答者は、「解体費などの助成」、「不動産業者などの斡旋」等を期待している方が多く、「貸したい」、「将来、自分または家族が使用する予定」の回答者は、「リフォームなどの助成」を期待している方が多い。

→希望に即したサポートと支援が必要

3. 札幌司法書士会へ相談したいことについて

(1) 「今後の予定や活用」とのクロス集計：(問5 (1)と問4 (1))

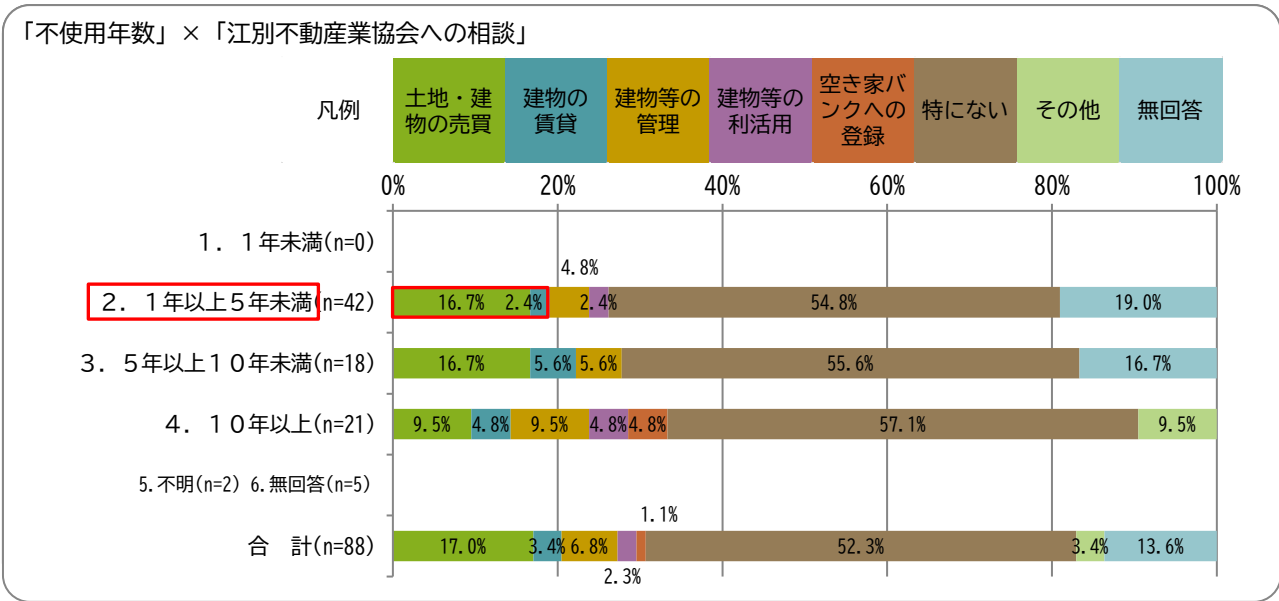


・「売りたい」の約2割が「建物の相続」や「建物の登記等」について相談したいと回答している。

→引き続き、札幌司法書士会と連携した相談体制の充実や空き家相談ダイヤルのPR・周知が必要

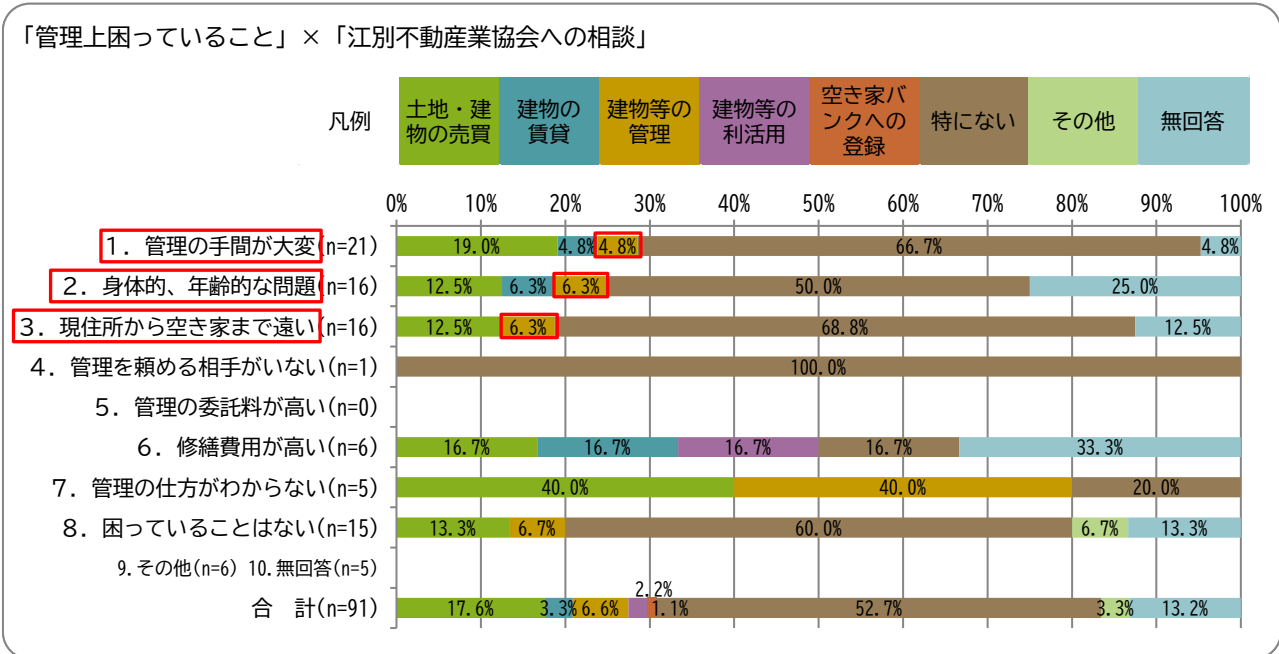
#### 4. 江別不動産業協会へ相談したいことについて

##### (1) 「対象建物の不使用年数」とのクロス集計：(問5 (2) と問2 (4))



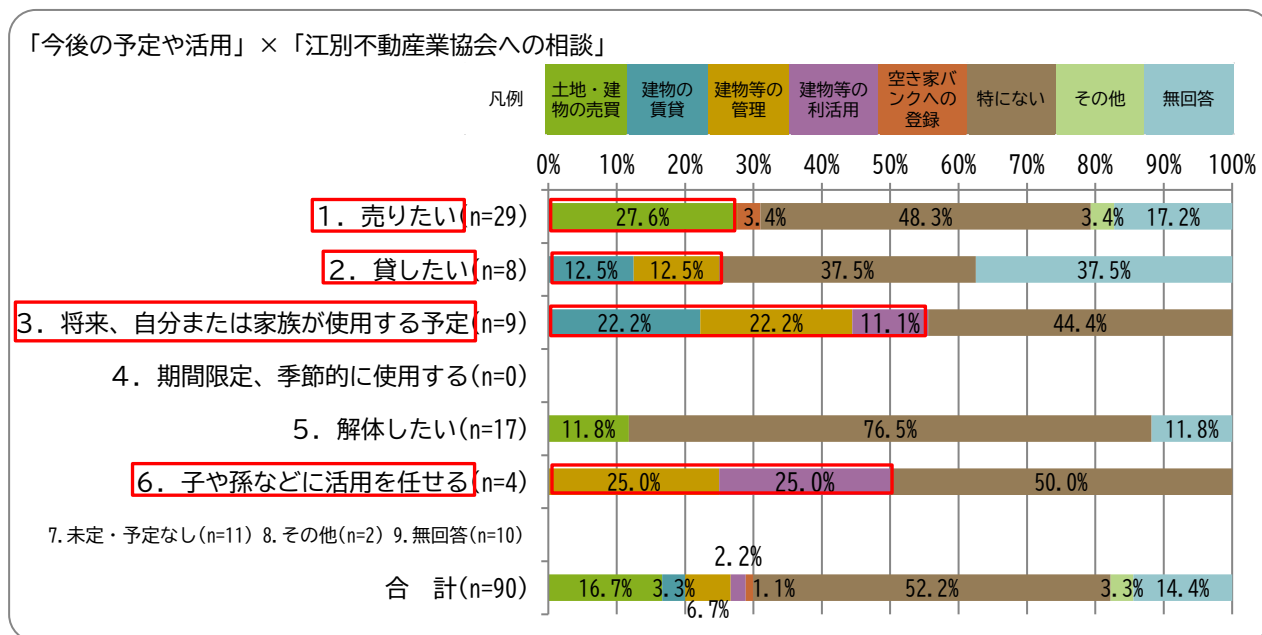
・ 不使用年数が1年以上5年未満の建物のうち、約2割の所有者が「土地・建物の売買」や「建物の賃貸」について、相談したいと回答している。  
 →空き家の早期の流通促進に向けて、江別不動産業協会と連携した取組が必要

##### (2) 「管理をする上で困っていること」とのクロス集計：(問5 (2) と問3 (5))



・ 管理をする上で困っている所有者等は一定数存在するが、「建物等の管理について」江別不動産業協会に相談したいという割合は少ない。  
 →空き家の適正管理の周知・啓発に合わせて、江別不動産業協会のPRが必要

(3) 「今後の予定や活用」とのクロス集計：(問5(2)と問4(1))



・「売りたい」との回答の約3割が「土地・建物の売買」について相談したいと回答しているほか、「建物の賃貸」「建物等の管理」「建物等の利活用」についても、相談したいとの回答が一定数存在する。

→所有者のニーズに合わせて、相談体制の充実や江別不動産業協会のPRが必要

## 参考2：地区別集計

所有者意向調査から判明した空き家79棟について、地区別の棟数、建物用途等を分析した。

### (1) 地区別空き家棟数・建物用途の分析

地区		棟数	合計
江別地区	江別北	24棟	41棟
	江別南	17棟	
野幌地区	野幌北	12棟	25棟
	野幌南	13棟	
大麻地区	大麻北	12棟	13棟
	大麻南	1棟	
市内全域		79棟	

表1 地区ごとの棟数

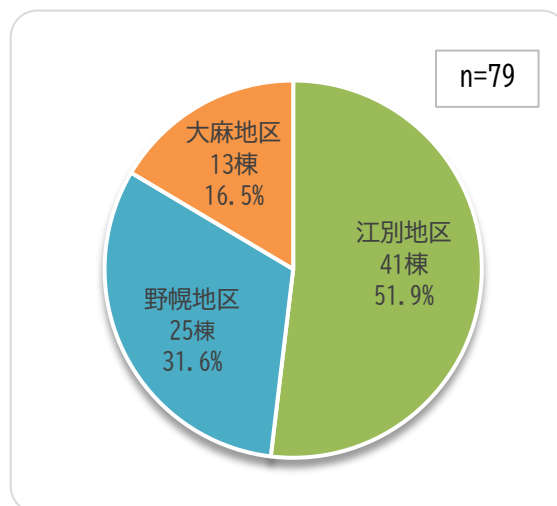


図1 地区ごとの棟数・割合

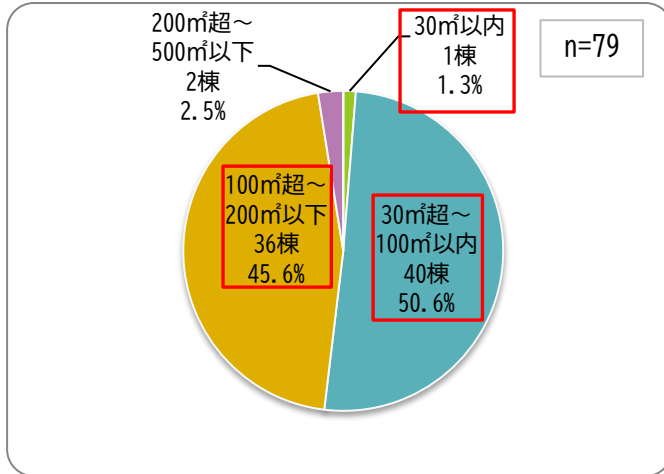
用途	市内全域		江別地区 (内訳)		野幌地区 (内訳)		大麻地区 (内訳)	
	棟数	割合	棟数	割合	棟数	割合	棟数	割合
専用住宅	73棟	92.5%	37棟	90.3%	23棟	92.0%	13棟	100.0%
併用住宅	2棟	2.5%	1棟	2.4%	1棟	4.0%	棟	0.0%
共同住宅・寄宿舎・アパート	2棟	2.5%	1棟	2.4%	1棟	4.0%	棟	0.0%
その他	2棟	2.5%	2棟	4.9%	棟	0.0%	棟	0.0%
	79棟	100.0%	41棟	100.0%	25棟	100.0%	13棟	100.0%

表2 用途ごとの棟数・割合

- ・空き家の棟数は、江別地区が半数を占めており、野幌地区が3割となっている。(表1、図1)
- ・建物用途は、専用住宅の割合が高く、全体の9割以上(表2)

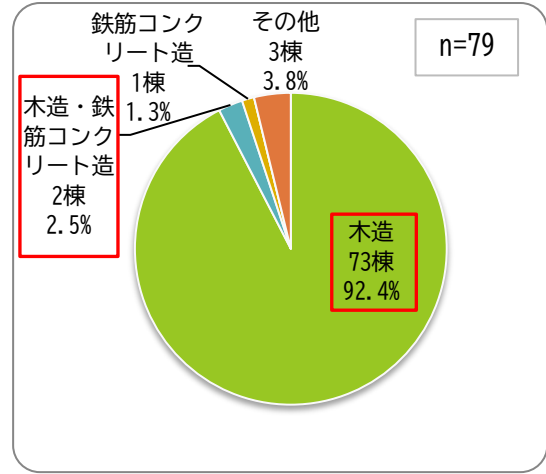
(2) 面積・構造・築年数の分析

①面積



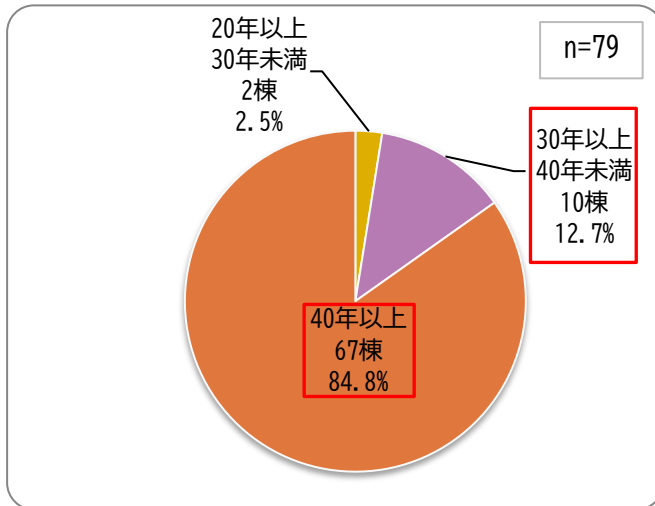
・ 200㎡以内が全体の9割以上

②構造



・ 木造が全体の9割以上

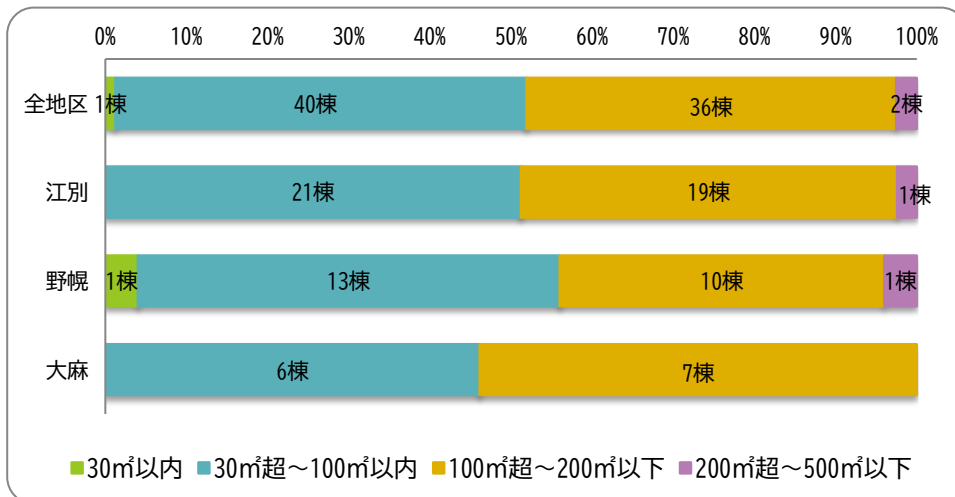
③築年数



・ 築30年以上が全体の9割以上

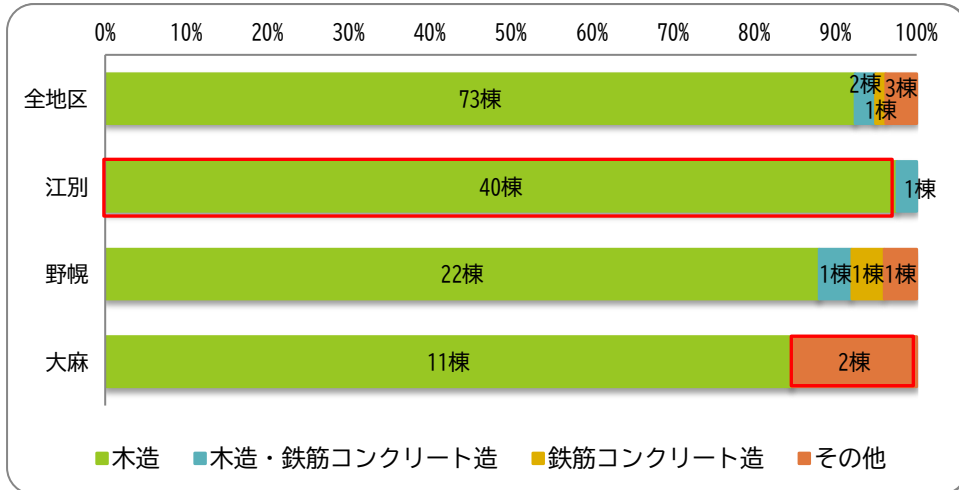
(3) 面積・構造・築年数・空き家期間の分析 (地区別比較)

①面積



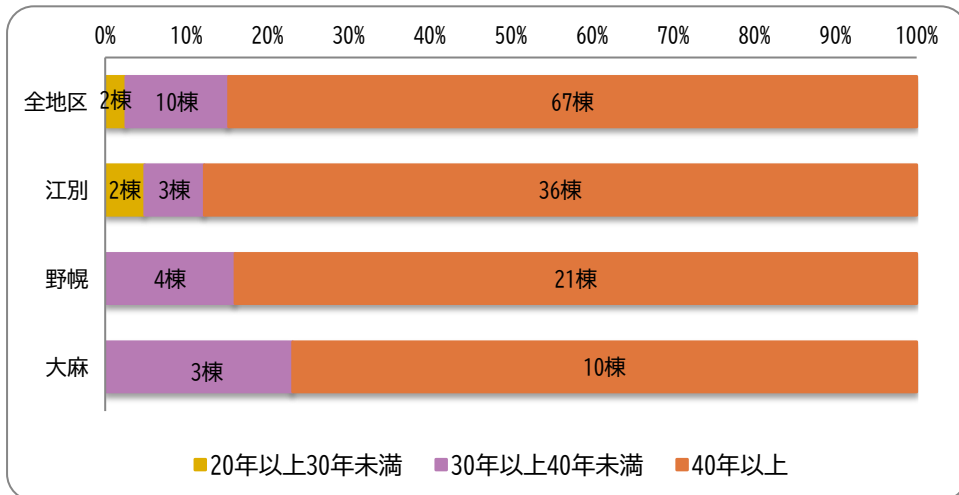
<共通>  
面積が100㎡以内の割合が  
いずれも50%  
程度。

## ②構造



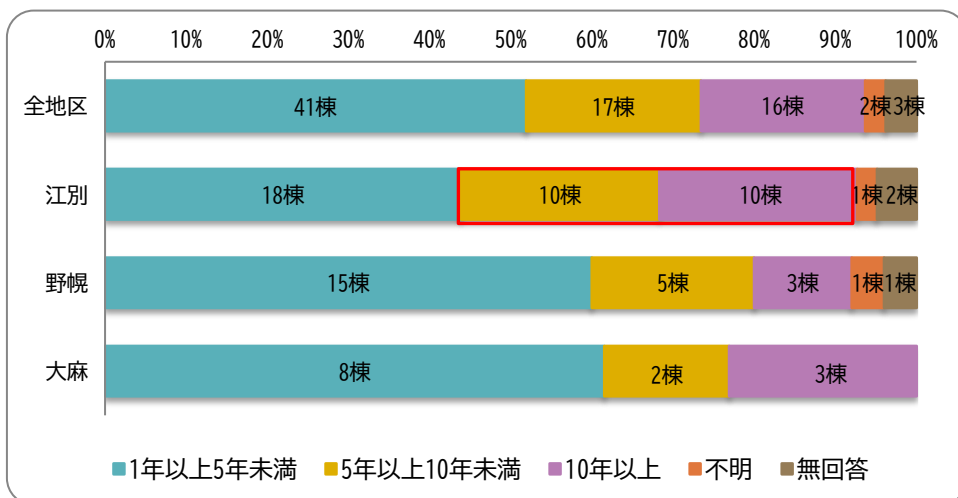
<江別地区>  
木造の割合が他の地区と比べて比較的多い。  
<大麻地区>  
その他の構造の割合が他の地区と比べて多い。

## ③築年数



<共通>  
40年以上の建物の占める割合が多い。

## ④空き家となった期間



<江別地区>  
期間が5年以上経過している割合が他の地区と比べて多い。